

# 世界各地からセキショウへ



橋渡し役果たしたい

ブイ・ミン・トゥさん

ベトナム出身 入社3年目

システムソリューション部でシステムエンジニア（SE）をしています。大学生の頃に日本やシンガポールなど、IT技術の高い外国で働く夢を抱いていました。その矢先、ベトナムに日本企業が進出してきてくようになり、日本で働きたいと思う気持ちが高まりました。ちょうどそのタイミングで、セキショウがベトナム・ハノイで開催した『SEKISHO JOB FAIR』がきっかけで、入社することとなりました。

日本に来る前、1年間ベトナムでSEとして働いていました。ベトナムはSEは専門職でIT分野以外の研修はしませんが、日本ではいろいろな研修やセミナーを受けるよう勧められます。最初は不満に思いましたが、仕事をする上ではコミュニケーション能力も必要で、お客さまにきちんと説明できることが大事だと分かってきました。

将来の目標は、日本とベトナムの橋渡しができるような仕事をしたいと考えています。そのためにはお互いの価値観の違いを理解することが大切です。日本とベトナム双方が良くなるように努めていきたいです。

関彰商事(本社つくば市・筑西市、関正樹社長)では現在、世界各地から外国籍の人材が来日し、縁あってセキショウグループの一員として働いている。変化の激しい経済環境においては、多様な人材が交流し意見を出し合うことが今後の企業成長の要素と見据える同社にとって大きなチカラになっている。このうち、ベトナムのブイ・ミン・トゥさん(26)、アメリカのタニ・ジェイミー・アズサさん(28)、インドのエシュナ・サクデバさん(21)、フランスのルドヴィク・デビノさん(37)、ブラジルの鈴木レナンさん(22)の5人に、仕事の取り組みや将来の夢を語ってもらった。

## 多様な人材が交流しチカラに



セキショウグループで働く(前列左から)ブイ・ミン・トゥさん、エシュナ・サクデバさん、鈴木レナンさん、(後列左から)タニ・ジェイミー・アズサさん、ルドヴィク・デビノさん

## 地域貢献の志を胸に



地域の課題解決に力

ルドヴィク・デビノさん

フランス出身 入社2年目

モビリティ総合企画部で自動車販売の分析や、モビリティ事業の海外事例の比較研究、イベント企画などを担当しています。入社前は茨城県庁の国際課で約5年間、国際交流の仕事をしていました。茨城フランス文化スポーツ交流協会の関係で、地域でのつながりを大切にしている関彰商事のことを知り、どんな企業なのか興味を持ったのがきっかけで入社しました。

職場では分析の仕事を担当していて、数字に強いと評価されています。周囲も上司も特別に外国人扱いにはされず、自分も特別視してほしくないですね。また関社長は、外国籍の社員はできるだけ自国とのつながりを深めてほしいという考えをお持ちで、それはとてもありがたいことだと感じています。

常にモビリティ社会の将来を考えています。茨城も高齢化や過疎化が進んでおり、新しいモビリティサービスが必要です。それを考える上で、自分のアイデアが反映されたいです。地域貢献をしたいと関彰商事に入ったので、地域の課題解決につながる仕事ができれば大きな喜びです。

## 異なる文化乗り越え



世界見据えた企業へ

タニ・ジェイミー・アズサさん

アメリカ出身 入社2年目

総合企画部で国内外の新規事業やSDGｓ関連の調査、海外事業のサポートをしています。アメリカ国籍ですが両親は日本人です。母親は水海道市(現常総市)出身で、子どもの時から茨城県をよく知っています。アメリカの大学を卒業後に専門学校で学びましたが、日本の方が自分の新しい可能性を発見できると思い、筑波大学大学院に留学。その後、就職先を探る中で、地域貢献活動を積極的に行っている関彰商事が目に入り入社を決めました。

入社してから文化の違いを感じることもありましたが、それは日本では当たり前で「お茶出し」です。アメリカの企業でも飲み物を出しますが、日本ほど気遣って提供はしません。初めは違和感がありましたが、今ではお客様を大切に思う日本ならではの「おもてなし」であると理解しています。

将来の目標は、社内のグローバル化です。日本だけでなく、世界でもビジネスを展開できるように土台づくりに貢献できればと考えています。また、関彰商事の活動が外国人には知られていないのは残念です。茨城県で最も地域活性化、地域貢献している会社だと感じているので広めたいです。

## 外国籍社員が仕事や夢を語る



自国にセキショウを

エシュナ・サクデバさん

インド出身 入社1年目

2019年の12月に入社し、総合企画部に所属しています。インドのネルー大学で日本語と日印関係を学びました。インドでは今、日本企業が増えると同時に、日本への関心が高まって日本語を学ぶ人も増えました。そのような中、大学時代に関彰商事でのインターンシップを知り参加。その際に職場の皆さんが優しく迎え入れて頂いたこともあり、再び関彰商

事でも働きたいと思いました。

入社して驚いたことは「朝礼」の文化と仕事終わりに「お疲れさまでした」と言葉を交わすことです。日本人は時間に正確ですが、インド人はそうではないため、朝礼という文化はありません。またインドでは自分の仕事が終われば黙って帰宅します。私も今では、当たり前朝礼へ参加し、仕事が終わったら挨拶をしていますが、最初はカルチャーショックでした。

将来は、インドで『SEKISHO JOB FAIR』を開催したいと考えています。インドのIT人材は世界的に有名ですし、日本に来たいと思っている人は多いです。まずは仕事に慣れることから始め、いろいろな経験を積み、実現できるように努力したいです。



夢諦めない姿見せる

鈴木レナンさん

ブラジル出身 入社4年目

セキショウホンダ筑西横塚店のサービスメカニックとして自動車整備の仕事をしています。小さいころから茨城県内に住んでいて、ブラジル人学校で勉強していました。もともと機械を分解して修理するのが好きで、高校3年の時に就職先を紹介されてホンダ車を取り扱うセキショウホンダに入社しました。職場はとても温かい雰囲気です。入社した当時は持っていなかった自動車整備士の資格を取得する際、先輩たちは忙しい中でも時間を割いて試験対策を教えてくださいました。仕事終わりにも対応してくださったことを今でも感謝しています。

将来は、店長になることを目標としています。つくば市内にブラジル人学校の後輩がおり、自分と同じ整備士になる夢を持っています。話をしていると自信がなさそうに感じるの、整備士となった今の姿を見せることはもちろん、将来店長になってその姿を後輩たちに見せたいと思います。諦めず努力すれば夢はかなうと見せてあげたいです。

企画制作・茨城新聞社営業局

それぞれの働く熱意をつなげる

『SEKISHO JOB FAIR』

セキショウグループでは、2016年よりベトナム人材と日本企業および日系企業の就職マッチングを行なう合同企業説明会・面接会『SEKISHO JOB FAIR』を開催しています。

これまで6回のフェア開催を通じて、日本企業および日系企業での就業を希望する3,600名が参加。また、優秀なベトナム人材を求める企業様にも107社にご参加いただくなど、多くの就職マッチングをサポートしてきました。

日本に関わる仕事をしたい熱意。優秀な外国籍人材を採用したい熱意。

これからの互いの熱意を1つにつなげていきます。

健全なる次世代のために  
for a Healthy Next Generation



2019年11月2日・3日『第6回 SEKISHO JOB FAIR』(於)ベトナム ハノイ工科大学

本年もよろしくお申し込み申し上げます。

関彰商事株式会社

【下館本社】〒308-8512 茨城県筑西市一本松1755-2  
【つくば本社】〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1-23-6

www.sekisho.co.jp  
セキショウ 検索

